

【3-2】日常生活支え合い実践事業

自治会型デイホーム利用促進事業 (福井市)

基礎情報

実施地域	市内一円
実施主体	福井市
所在地	福井市大手3丁目10番1号
代表者	福井市長 東村 新一

平成23年度の事業概要

市内一円で開催されている自治会型デイホームの利用促進、とくに男性利用者の増加を期待し、男性が興味を抱く新しいメニューに必要な映像機器等の備品について選定し購入した。備品は、自治会型デイホーム事業の委託先である福井市社会福祉協議会、実施主体となる地区社会福祉協議会に貸し出され、健康カラオケ大会、映画鑑賞会など、男性も参加しやすく、気軽に集まることのできる居場所づくりに役立てる。

- ・プロジェクター、スクリーン、DVDプレーヤー、デジカメ等、映像機器等を購入し、高齢者の居場所づくりのための活動に貸し出す。

現在の活動状況

平成12年10月から自治会型デイホーム事業を開始、福井市社会福祉協議会に委託している。このデイホーム事業を充実させるため、平成23年度より新たな備品の貸し出しを行っている。以下、新たな備品を利用した活動の一例を紹介する。

<概要>

平成24年6月14日(木) 大安寺地区 大安寺公民館で行われたメンズデイホーム(愛称:おやじの広場)で、講師からデジタルカメラで上手に写真を撮る講習会を行った。

<維持管理>

貸し出し用備品については、福井市に物品借用申請書を提出し、借り受ける。

デジタルカメラで撮った写真をその場でプリントアウトするために、持ち運びができるプリンターを購入し、デジタルカメラと一緒に貸し出す。インクは市社協で準備し、写真紙は各デイホームで準備する。

<利用状況>

年6回あるメンズデイホームで、毎回20名程度の利用がある。当日も22名の参加があり、自分のカメラを持って参加する利用者もいた。

事業の実績、成果

自分のデジタルカメラを持ってきた利用者もいたが、初めてデジタルカメラを使う男性もいて、興味を持って講座を受けていた。

同様の講座や、そのほか新しい備品を活用した活動を行いたいと備品貸出しを希望する地区も徐々に増えており、男性の参加者数増加に役立てられている。

工夫した点

おやじのひろば独自のチラシを配布したり、地区壮年会会員に声をかけ、多くの方に講座開催を知ってもらえるよう広報活動を行った。

備品貸出しにあたっては、適切に管理が為されるよう市社協と連携しながら行っている。

事業の財源

平成23年度の地域支え合い体制づくり補助金で、新しく映像機器等の備品を購入。自治会型デイホームは、市委託料、市社協補助金、地区社協自主財源、利用者負担金、寄付金で運営されている。

課題

男性は、歌や創作などよりは、動きがあるものが良く、成果や達成感を味わえることを好むように思う。

デジタルカメラは撮った画像がその場ですぐ見られ、撮り方の工夫もできるので、今後、初級、中級などグレードを上げたり、1回で終わらず3回講座などにすると更に達成感を味わうことができるのではないかと。

今後の目標

今回は男性のみの開催だったが、女性利用者にもデジタルカメラを体験してもらい、新しいことに挑戦する興味を持ってもらいたい。

利用者全体に占める男性利用者は、10月には昨年度を上回って21.2%となり、平成24年度1月末現在で22.8%と、その後も増加している。今後もさらなる増加に向けて、また開催回数においては1地区月5回以上、参加者数においては平成27年度に9,390人を目標とし、自治会型デイホームの利用を促進していく。

団体からのメッセージ

<福井市からのメッセージ>

時代の移り変わりとともに、高齢者の方が興味を持つ内容もアナログなものからデジタルなものまで多様化しています。活動の幅を広げることにより、よりいっそうデイホームへの参加が促進され、介護予防、生きがいづくり等々に繋がるよう期待しています。

<市社協からのメッセージ>

デジタルカメラ等、新しいことに興味を持つことによって視野を広げてもらい、毎日の生活に生きがいを持ち、元気に毎日を過ごしてもらいたいです。